

㊦ B—33 衣服構成の機能的考察  
—袖と身頃の関連について—

京都女子大 ○土井サチヨ  
石田 勝代  
勝谷 弥生

1. さきに袖付の構成と身頃原型について報告したので、今回は身頃と袖とを縫い合せた場合の機能性についての基本原理を探り既成原型の問題点を解明しようとした。

2. 人体に方眼区画線および肩胛線、腋点の位置における水平線、チェスト線を入れ上肢の動作に伴う有機的変化を考察して機能性の必要部位を探り、既報の如く自在曲線定規を用いて袖山および腋下の型を設定し、これを作図に用いた。

3. ゴースを用いて身頃を製作し、これを着装して体表の線との関連を観察した結果、腋点の位置における水平線並びにチェスト線は一致した。また上肢の動作に伴う袖付線の変化を測定して動作に要する不足量を知り得た。更に肩胛線の位置においてのゆるみも必要であることが解り、ここにもゆるみを入れて検討した。上肢前方挙上時の運動量は腋下にいせ込みを入れることによって処理できると考えられる。このようにして仮縫を要せず上肢の動作に対して相当に順応し得て機能性を有する作図法が実現した。これを瘦型、標準型、肥型と思われる者を選んで考察したが、妥当と思った。